

### 標 語

- 1. そなえよつねに (B. S.)
  - 1. いつも元気 (C. S.) (モットー)
- スローガン  
日々の善行



### ち かい

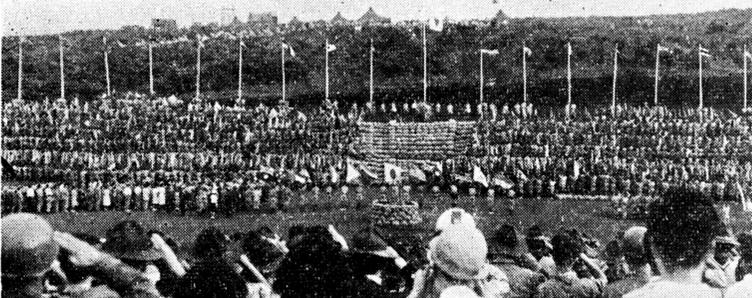
私は名誉にかけて次の三条の実行を誓います。

- 1. 神(仏)と国とに誠を尽しおきてを守ります。
- 2. 他の人々を援けます。
- 3. 体を強くして心をすこやかに徳を養います。

### 開会式における皇太子殿下のお言葉

今夕、アジアジャンボリーの開会式にあたり、内外スカウト諸君のはつらつとした姿に接しましたことは私の大きな喜びであります。諸君がこのジャンボリーの意義をよくわきまえ、真心を尽くして多くの友と語り、理解を深め、友情を厚くし、世界平和に貢献されることを心から希望してやみません。

【写真説明】(右)8月3日皇太子ご夫妻並に文部大臣他の来賓をお迎えして開幕されたアジアジャンボリー(右下)開会式に参列した二万七千余のスカウトたち。



### 一 言 浜松地区 委員長 内田六郎

当浜松地区に於けるボーイスカウト運動も、発足以来ことしで九年目を迎えた。この間、前地区委員長故木全大孝君始め各役員、各団委員諸君の献身的な努力と精進とに依つて逐年活発現在十四ヶ団、二十ヶ隊のボーイスカウトと、八ヶ団のガールスカウトを擁するまでに進展して、当地方に於ける青少年育成の一翼をにないつつあることは喜びである。

然しこれは、三十七万市民を有する大浜松市を中心とする地区としては決して誇るべき現状ではない。少くとも現在に数倍するスカウト団の結成を見るまでに努力すべきではなからうか

幸い今夏八月二日より七日まで富士山麓に於いて繰りひろげられたボーイスカウト、アジアジャンボリーを契機として、スカウト運動に対する一般の認識がたかまり、その真精神も、漸次滲透しつつあることは、慶賀すべき次第である。と同時にボーイスカウト運動の指導の立場にあるものは(私も含めて)その責任の重大さを痛感し、愈発奮、愈謙虚な気持をもって、これの発展のために奉仕の意欲を燃し続けてゆきたいと念ずるものである。

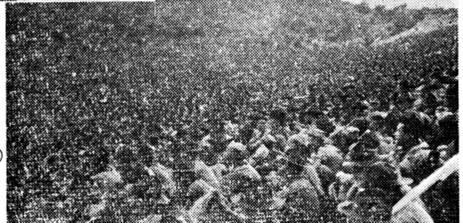
まことにスカウト運動こそは、現代の青少年の育成にとつて最適なものだと確信するものであるが、現実に於いては、この運動の進展が、甚だ遅々であることは、ひそかに残念に思う次第である。それには、いろいろな原因が考えられるのであるが、

中でも①指導者の資格あるものが少

いことと更に②良き指導者が少いこと。この二つが現実には主な原因ではなからうか。原因の①は、今後頻回の指導者講習会開催によつて漸次に解決されるべき問題であるが、②の良き指導者を得ることは、仲々困難であつて、指導者は、それぞれ一定の職業を持ちながらの奉仕であり、且ついつでも無料奉仕であることに壁があるのである。これが良き指導者としての継続性を持ちつづけるためには、つねに指導者自身に反省的な謙虚な自覚が、あくまで必要なわけであり、更にもつと必要なことは、その指導者の属する職域の責任者の方のスカウト運動に対する深い理解と愛情と、更にその表現とにあるのである。

凡そスカウト運動にたずさわるものは、誰れでも、いつでもどこでも無料奉仕がたてまえである。このことに少しでもこだわりを持つては、この運動の真の進展は望めない。

この運動に参加させて貰うことに誇りを感じるところに、いやスカウト運動に奉仕させて貰うことに喜びと感謝を持つところにこそ、真のスカウト運動の進展が約束されるものだとは私は確信する。



### 尊き成長を祈るアジアジャンボリーよ

ここ日本のシンボルたる富士の霊山の麓、アジアジャンボリーは2万7千人の若人を集めての行事は、我々日本ボーイスカウトにとっては意義深い。

日頃の訓練をここにそのもてる力を発揮したい。然し実際を見て仲々理想通りにはいかない憾を、お互いに反省せしめられるのです。或る隊に於いては、日頃の訓練の不足を痛感すると報告があつた。これは或る隊のみの反省ではない。アジアジャンボリー参加者一人一人の反省であると思う。私は第1回軽井沢第2回琵琶湖、第3回とジャンボリーに参加してきて、お祭りであると共に何万と云う人が集まるのでキャンプサイドの有様は私共が、遠州浜川の仙境に於けるキャンプに比べて白雲万里

### 浜松地区野営長 吉 沢 純 道

の思いがする。ジャンボリーがBSのお祭りなためキャンプの真意義は望めない。

外来者も見物券々参加されるので、これもBSのPRにはなる。理想と現実とは随分違う事はあるが、開会式に皇太子夫妻御臨場の下に18カ国諸外国のボーイスカウト参加にて行われる厳粛な光景はボーイスカウトの誇りと喜びである。強いて云つて見れば我れ人間に生れた歓喜と又世界人としての義務を感じるのです。

日本ボーイスカウト国際の親善と友好を暖め得る好機会である。第1回アジアジャンボリーよ第3回日本ジャンボリーよ、尊き成果を祈る。(8月4日現地にて)

# アジアジャンボリーに参加して

## 内田地区コミ

7月25日から8月10日迄の17日間本部奉仕隊の一員として参加して、さすがにアジアジャンボリーとは大規模なものであると今更ながらに痛感しました。参加者27000人、見学者は数知れず広い富士の裾野の土屋台を中心にして、一日の中に2万7千人の都会が出来たのですから大したもの。私が過去に体験したジャンボリーで、軽井沢の時が1万2千人、滋賀県の時が1万6千人、比叡の世界ジャンボリーが1万7千人でありました。

そして、始めて本部の組織の中に入って見て、よかつた事やまずかつた事等沢山痛感しましたが、全国から集つた役員が急拠本部を構成し、其の運営に参画し、予定通りのプログラムを順調に消化して行く有様はさすがにボーイスカウトならではの感がしました。

事前の準備の不行届や、手違いは多少あつたにしても、とも角も、大きな流れの如く進められた諸行事は見事でした。そしてこの人達は皆奉仕で、参加費を納付して居る人達なのです。他の団体の常識で考えれば奇異の感がするのでしようが誰も此の事は口にする人がありませんでした。忙しい本部の業務の間をさいて二三回訪れた浜松地区の様子は、吉沢野営長を中心としてよくまとまり、和やかな雰囲気包まれて居る事は、他地区に比して見て私の最も嬉しい事でした。

配給について他隊との協同性について、若干の問題はあつたにしても、我が浜松

地区はよい地区でありました。先輩を重んじ、後輩をいたわる美しい姿は他地区に見られない美しい姿でした。決してハデではないが、地道そして人の和を保つた有様、これこそ、スカウト道の精華であると思われた。

野営長を囲んでの朝礼の様子を、走る自動車の上から眺めてほんとに嬉しく、涙ぐんで見たものでした。

団結、人の和、私は真の平和、明るい社会はこれから育つて行くものと思ひます此の気持が静岡県連の中に充溢し、そしてジャンボリー会場に漲つた時、ほんとのスカウト運動の成功した時であると思ひます。

こまかい事はとも角として、総じて今回のアジアジャンボリーは実に見事な立派なものであり、大成功であつたと私は嬉しく思つて居ります。

皆さん、御苦勞様でした。次回に備えて来夏に備えて、これからも更にスカウティングに精進しましょう。

周智第一団  
団委員長 河村 豊

弥栄門をくぐつて広大なテント村を眺める迄の私達は、アジアジャンボリーを目ざして、訓練を励んで来たスカウトにつきそつて来たものの、スカウトは隊長任せに過して、しかもユニホームを初めて身につけた親父の心細さを感じていたのでした。尨が私達は待ちかねた仲間をしつらえた座に招いてくれる暖い迎を受け、いつしかその仲間のうちにいる自分を見出すのでした。浜松地区の大きな翼

が私達を包んでいるのを帰宅するまで肌感じていました。洵に感謝に堪えない次第であります。

思い出のある滝ヶ原に立つて色とりどりの果しなく続くテント村を眺める時、いつの日か巡り合うとも知らぬこの盛事に行き合つて山の子等の感激に生涯の良い経験と永久に残るであろうと沁々感じるのでした。

道行く隊列の歌声に此方から掛け声かけて唱和する共通したサインで、見知らぬ同志の行交にも美しい仲間の交歓が幾たびとなく行われている光景に心暖まるものがあつました。

私達の隣のテントは規律のある実にきびきびした動作をしていました。吾が隊の目標をここに得た思いをしましたが、帰つて見ると子供ながらに感じたものでしよう。班活動に早速規律訓練を行つてはありませぬ。私達は良き隣人を得たものと幸いに思つています。

未熟なスカウトを引率し、スケジュールに追われながら楽しく三日間過させていただいた。吾が子等ながらよくやつたと云うささやかな心の安らぎを覚えると共に、スカウト訓練とは如何なるものであるか、この目この身体で味い得る機会を持つて大人も子供も大きな収穫があつたと思ひます。

ボーイスカウトを結成して一年弱にてアジアジャンボリーの盛事に参加し得てただ感激あるのみです。

感謝とボーイスカウトの弥栄を祈る心が私の感想であります。

## 奉仕隊反省会の記録

9月2日奉仕隊員として参加した反省懇談会も舞阪浜名第1団ルームにて行つた。以下はその記録である。

- ある一部のものが自衛隊の人と富士登山をしたがそれは奉仕隊員として参加しているのだから富士登山は悪かつた
- あるSS新聞の富士登山の件については誤報と思われる箇所が有り我々が登山に参加する際には帰つてから沢山の仕事があり、それでも良いかと全員に聞き良いと云つている。帰つてからの仕事は富士登山をしたスカウトだけでなく奉仕隊全員が作業をしたのである
- ローパーとシニヤ(奉仕隊員として参加したスカウト)の間の溝があつた。それはローパーの中に自身が大学生であるんだぞと鼻にかけるのでうまいかなかつたかも知れない。いくら経験が多くてもローパーに我々が批評するのが間違いであつたかも知れない。
- ローパースカウトが僕達に使う言葉が

非常に悪かつたと思ひ反省してもらいたかつた。

●最後の時に配給が有り僕達はなぜ開催中に配給がなかつたのかと疑問に思つている。(浜松4 山下 隆弘)

～○～ ～○～

或るSS隊の新聞記事より抜粋

～前略～ 本隊の富士登山については、後藤16隊長は奉仕副部長の承認を得たというが翌日になつて奉仕副部長は承認したおぼえはないという。しかしその結果が隊員にはねかえり、7日午前11時30分キャンプ地帰着。午後1時からはヤグラつぶしの重労働を課せられ、8日も施設部の作業に従事し、富士登山のつかれが出て今日の作業は非常にだるかつた」と記録されている。浜松あたりからの富士登山より多少楽だつたかも知れないが富士登山の翌日は休養が原則だ。

SS隊長の気持、うまくやつたゝ親の気持 うまくぞ耐えぬいたゝ

尚、山下等が山頂に達したのは8月8日ではなくて7日のことである。こんな大行事をやつた日時も僅か13日間に忘れて居る。人間の記憶力がいかにあてにならないかの確証と云えよう……以下略。

## アジアジャンボリー隊報告書 反省の記録の中から

1、「人ふりみて吾がふりなおせ」他隊を訪問してみると自隊の不備な点がよくわかる。

1、日常スカウティングの練磨の不足を痛感。

1、水利、便所に遠く忍耐と辛棒のいること。

1、BPの云う、スカウト道に近づくとする努力の不足、指導者層の認識の欠如を振り返つてみた。

1、ジャンボリーに於けるスカウトの行動についてリーダーとしてジャンボリーの運営について研究する必要がある

# 東海六期実修所へ入所して

周智第一団少年隊  
隊長 桑島 亮

私が第六期東海実修所入所を薦められたのは去る七月十四日頃であつた。思いもかけぬ実修所入所は浜松地区内田コミッショナーの深い思いやりの賜と喜んで入所を決心したのであつたが、一方を考えた時、私は私に課せられた重大なものがその裏面にあると考えれば考える程痛感もし不安にもなつた。それでもこのことをよく考えてみれば入所を奨められるという事は、単に私だけの問題ではなく恐らく地区の問題事であり、大きくは県の更には日本のスカウトの問題であるかの如く考えさせられたのである。私はこうした考えの基に早速入所に必要な書類一括を県連事務局へ提出したのであつた。其の後入所に必要な種々の心得等も伺いながら、どうやら自分が実修所へ入所するのだと心に言い聞かせて準備に取りかかつた。

去る八月廿日私は山の中の秋葉路を夕刻早かごにて出発し地区事務所である法林寺の心ある配慮により一泊、翌朝午前三時起床、浜松発四時〇六分の汽車にて実修所道場である岐阜県八幡町駅向け出発（この間乗者二四名）午前十時三十分、八幡町に到着、本部長一名が待つていた私の到着は一番のりであり、他の人は誰れも到着していなかつた。少々心細く感じながら集合時間正午までは一時間三十分の時間を待たねばならないので、一人八幡町の街々を散歩しながら昼食をとつた。十一時五十分頃であつたか、駅へ引き返してみると十数名の各指導者層の人々が集つていた。（この中には浜松地区の加藤憲学氏もまじつていた）やがて数分後本部長が我々のそばへ寄り氏名を呼び始め、私の名前をも呼んだ。こうして全員集会が終り午後一時頃八幡町より団委員の方々（八幡町に本部スカウトが生まれたこと）の配慮により小型トラック、乗用車夫々に分乗し道場である八幡町洞地内へ向け出発した。道場弥栄門で全員降車を命ぜられ、其の場で一人一人の点検と所長の訓示があり改めて入所を許されるというきびしいものであつた。入場後ユニフォームの県名、地区郡名、団号章の取りはずしを命ぜられた。そして各員配属班が決められ入所式に入った。その中には本部長の紹介、国旗掲揚、所長訓示等があり、終つて各キャンプサイドが決められた。私は熊班に配属

され員数は五名、他班は四名づつ三班で計十三名の実修員で隊が構成されたのである。その後野営に必要なテント類、食器類、工具、食糧等が配られ夫々決められたサイドに集まり始めた。こうしてテント張り、食卓、かまど等の設営が六時近くまで続けられた。この間一秒たりとも暇はない。丁度当日は私共の班が当番班となり、夜の小営火の準備、さらには国旗の降納やらで班員ははたたくたになつた。

こういう多忙な中で夕食を済ませ、班員は小営火の広場に午後七時三十分集合、小営火が始まつた。この日のだし物は歌二曲（各班）であとは所長（野営長）の夜話等があり静かに終了、夫々各テントに帰る。その後は入所時に渡されたノート、閑時作業等の整理に追われる。同時に班引続きの細工に専念する。消灯時間十時には出来上る予定であつたが、それも出来ず点検のあと、電池を毛布に包み作業を続けるという苦しみ方であつた。

## 第二日目（廿二日）

六時起床、朝食、点検、朝礼作業、その間に閑時作業とあり、殊に閑時作業は個人のもの、班で行うものとの二通りあつてその時間はまことに少なく、三分～五分位の間を利用して実施しなければならず、個人的な時間はほとんどない。当日の作業としては、班長訓練を主とした結索法、歩測と観察（池の観察）石膏、キャンプに於ける献立等の各作業に終始する。夜は雷を伴う大雨であつたので本部テント内に営火。各班毎にBP伝寸劇と歌一曲を夫々披露、所長からはBPの歴史夜話を聞き静かに各自テントへ。班長は年少幹部会議出席、帰つて班会議閑時作業、消灯。

## 第三日目（廿三日）

六時起床から朝礼まで前日と同様である各種測量、ゲームの扱い方、その種類モールス、手旗、夜間、夜間訓練の型と目的、閑時作業、班閑時作業等に終始する。

## 第四日目（廿四日）

六時起床より朝礼までは前日と同様である。地区団のハイキングとその報告書の書き方、午後二時三十分より一泊旅行（午後より大雨となる）一泊ハイキングは大雨の中をついて実施され全身びしょぬれ。山を越え午後七時目的地八幡町に到着、学校校庭にて夕食、雨がひどい

で校舎に宿泊、当日の課題のひとつとして郡上八幡おどりを覚えることとあり、よつて私共は変装して町へ出ておどりを習つた。

## 第五日目（廿五日）

起床五時、朝食七時、八幡城に向う。七時三十分頃到着、八時朝礼、終つて下山サインによりニワトリ一羽を求め早かごにて野営地（道場）へ十一時三十分到着。昼食、この間ハイキング報告書の整理、午後よりスカウティングの意義、パトロールシステム、運営の手法等の講義あり。夜は大営火、だし物寸劇、歌、おどり、各班終つて閑時作業、十時消灯。

## 第六日目（廿六日）

朝より台風きたり、大雨の中撤営開始、この大雨と風の中で即席ラーメンをそそる。食器具類、工具類、テント類の返済と点検を受け撤営作業は全部終つた。午後二時三十分閉会式。所長の挨拶、主催者の挨拶、終了証の授与、実修生お礼の言葉、別れの歌、弥栄。終つて解散。入所時と同じ様に八幡町団委員の方々への配慮によりトラック、乗用車に分乗し取り敢えず八幡町のある寺へ。ここで台風も消え小雨となる。実修員は夫々別れを惜しみつつ家路へ急ぐ。

こうして六日間に亘る実修所は終つた。この実修所で得たいろいろの実技は全てが尊いものであつた。それもあの雨の降る、風がふく中に得た貴重なものであつたからに外ならない。こうした経験は忘れ得ぬものであると同時に、スカウト指導上の大きなバロメーターともなり愈々斯道発展に精進すべく熱情を更に深く勇氣と共に増さしめたことに大きな実修所の意義があるものと思う。又全てに豊富な自信と経験を得させ与えさせられたことは今更ながら思いを新たにさせられる入所以前は実修所の価値すら浅く考えていたのであつたが、自から入所して始めて実修所の尊さが分るのである。成る程実修所は資格を得る機関ではなく、実技の修得の場所であることを付け加えて置きたい。今後多くの指導者があの尊い実修所へ進んで入所され少しづつスカウト運動が出来ると信ずる。又そうでないならば永遠なるスカウトは生まれ得ない。

## アジアジャンボリーに参加して

（周智第一団少年隊・ワシ班）

小島 孝二

ぼくはジャンボリーに行つて思つた事は参加する人が大勢であつたことである。みんなは恥かしくないような行動をしようと努力した。だが模範になるような隊もあれば、そんなことはどうでもいいと思つている所も少なくない。それと外人の態度の立派なことである。僕はサインを頼むと、決してうるさげらない。ていねいにサインをしてくれる。日本人にサインを頼んでみた。そしたらローマ字

で書いてくれた。僕は日本人なら日本人らしく、日本語で書くべきだと思つた。皇太子夫妻の通る時の通路のこんざつはすごかつた。通路に出ないでくれといえ、いじのようにならぬと押す。これではスカウトの値打も落ちる。それと同時に皇太子夫妻は「スカウトってこんなものか」と思つたにちがいない。

（周智第一団少年隊・ワシ班）

斎藤 登

ジャンボリーの感想は、いろいろある

が、その中でも一番よかつたと思つた事は、八月四日の夜いろいろ踊りなど見た事だ。またその外、いろいろ勉強になることもあつた。ジャンボリーに行つて本当によかつたと思う。それに気を付けた事は、むこうで寝る時、テントの中で騒いでいたので浜松の隊長に注意された。ジャンボリーは大勢集まるので、隊で行く時のように騒ぐと皆んなの迷惑になるので注意してもらいたい。また小使いの事で、僕もそうですが、決められたお金より少し多く持つていつた人もいた。むりと思ひますが、なるべく守つてほしいと思う。

# うごき (浜松地区)

- (7月~9月)
- 7月20日 団委員長会議 6.00 於法林寺  
テーマ アジアジャンボリー  
に対処する
  - 21日 三土会
  - 22日 奉仕隊訓練、於静岡市駿府公園  
L4、S19参加
  - 25日 奉仕隊第一陣出発
  - 26日 ジャンボリー地区編成打合  
法林寺 牧野、池田、三輪
  - 27日 奉仕隊第二陣出発
  - 28日 奉仕隊第三陣出発
  - 29日 奉仕隊残り全員出発
  - 8月1日 ジャンボリー行荷物トラック  
積込整理 法林寺 5.30
  - 2日 参加者全員出発 102名  
7.30 市役所前
  - 3日 ジャンボリー開会式
  - 5日 大行進、大営火
  - 7日 閉会式
  - 8日 帰着 市役所前  
6.30—法林寺(解散)
  - 10日 ジャンボリー奉仕隊全員帰着
  - 9~10日 浜松市こども会指導 弁天島  
臨海学舎 宮沢、牧野、三輪
  - 11日 引佐町BS説明会(宮沢)
  - 15日 地区今回ジャンボリー反省会  
於法林寺
  - 17~20日 静岡県教委体育保健主催シニ  
ヤキャンプ指導の為、富士山  
麓太郎坊へ 内田嘉、鈴木順
  - 18~26日 日本ギルウェルBSコース入  
所(宮沢、牧野)
  - 18日 三土会
  - 21~26日 東海実修所入所 於岐阜県  
(桑島、加藤賢)
  - 22日 臨時地区隊長会 於法林寺
  - 25~27日 GSリーダー養成講習会  
於青少年の家
  - 25日 県連ジャンボリー反省会  
後藤、角出席
  - 28~31日 CS指導者養成講習会  
於引佐町井伊谷宮
  - 9月2日 奉仕隊反省会於舞阪町学習会
  - 5日 湖西町川尻BS説明会(宮  
沢、鈴木順、内田嘉出席)
  - 8日 地区内コミ会議 於法林寺
  - 13日 フランス人形劇推選児童会館
  - 15日 三土会 於法林寺
  - 16日 県連地区コミ会議 於静岡
  - 19日 地区委員長、財政委員長会議  
静岡 喜久屋(内田六、三輪)
  - 22~23日 浜松青年野営指導講習会  
於青少年の家(宮沢、牧野)
  - 22~23日 篠原青年学級講習会  
於青少年の家(内田嘉、後藤)

## 画上映

註、以後各団指導者引卒のもとプラネ  
タリウム見学 当日は入館料金はいり  
ませんから、係まで申出て入館して下さい。  
団委員はなるべくユニフォームを着  
用して下さい。私服の場合は各団まとま  
つて入館のこと。御父兄等の参観を希望  
致します(細詳は隊長へ問合せ下さい)  
尚、当日式典に於て表彰、感謝に価す  
るスカウト及びリーダー及び理解者で該  
当する方がありましたら資料を添え各団  
委員長取纏め、地区事務長まで御推選下  
さる様お願い致します。

## 一人が一人

アジアジャンボリーを盛況裡に終えて、  
ラジオ、テレビ、新聞等を通じて、全国  
にボーイスカウト運動が大いに喧伝せら  
れて、理解と関心を昂めた事は関係者の  
一人として、誠に嬉しい事です。  
引続いて実施されたガールスカウト及び  
カブスカウトの指導者講習会に夫々多く  
の受講生が参加されて、其のお蔭で各地  
域に結成の気運が高まり、嬉しい悲鳴を  
あげて居ります。  
正しく理解されたスカウト運動が愈々発  
展して行く事は嬉しい事です、その真  
実を伝えて行く事は仲々容易ではありません。  
地区の役員だけの力では仲々果されませ  
ん。父兄の方々、スカウト諸君が力を合  
せて、一人が一人の新しい同志を獲得す  
る事だと思います。一人が一人の同志を  
獲得する事によって、現在の10万人が  
20万人に、そして20万人が40万人  
になる事です。そして明るい郷土が、明  
るい日本が建設されて行く基礎となる訳  
です。  
明るい社会建設の為に、一人が一人、倍  
加運動に協力しましょう。  
健全な明るい社会を我々の手で。

(内田地区コミ)

## 第11回世界ジャンボリー 内田君派遣決る

(於ギリシャ、マラソン)

- L 井野 包次 県副コミ
- 小川 博 藤枝地区委員長
- S 奥村 一衛 沼津4.S.18才
- 鈴木カツミ 静岡6.S.15才
- 深見 研志 26.B.14才
- 大石 保 藤枝1.B.17才
- 内田 博人 浜松4.B.14才
- 瀬戸 直人 吉原1.S.16才

## コーラスに集ろう

資格男女の別は問いません。毎週水曜  
日7時30分から、第一幼稚園で、約1時  
間程度行います。特にリーダーは、ソング  
持導をする上にも必要です。是非参加  
下さい。指導は、武蔵野音楽大学出身の  
長柄弘道先生です。  
【練習】コ隊は毎月第2、第4水曜日7  
時からです。かかさず練習を続けよう。

## ボーイスカウト 指導者養成講習会

10月19日~22日の間  
浜松市住吉町 青少年の家

(旧陸軍墓地)  
会費 一人 1,000円  
講習会を受けてみようと思う方、又適当  
な方がお近くにありましたらお推選下さ  
る様お願い致します。  
(問合せは 浜松地区事務所  
TEL②3018  
成子町 内田方及び浜松市社会教育委  
員会マデ)

## お願い

各団委員長、考査員、隊長各位

進歩記章、技能章交付申請書を各  
団へ配布致しますから今後以上の関  
係については、従前通り地区を通じ  
日本連盟規約760条により交付申  
請をするようお願い致します。

## 〜あとかき〜

充分な準備と大きな期待を抱いて参加  
したアジアジャンボリーが成功裡に終幕  
出来たことは、奉仕隊の並大抵でない労  
苦と内外を問わず参加、参観したスカウ  
トの心のふれあいが結集した賜です。

浜松地区に於ても野営長をはじめ各団  
の団委員・リーダーが良くまとまって努  
力したことは感謝で一杯です。

とくに参加記念の意味で、沢山の記録  
や感想文の寄稿をいただきましてありが  
とうございます。いずれ文集の形で一書  
にまとめ刊行したい所存ですので割愛さ  
せていただきましたが、この点ご諒承く  
ださい。

11月3日行われるスカウトの集い  
にはフィルムに収めた数々のジャンボリー  
光景をご覧いただけたと思います。

乞ご期待!

スカウト浜松の題字は地区委員長、内  
田六郎先生がお書き下さったものです。

(M)

(編集者・牧野、池田政、稲垣、三輪)

## 発行所 No.2

日本ボーイスカウト浜松地区

事務所 浜松市成子町

TEL(2)3018

編集発行責任者 三輪 悦爾

昭和37年10月1日 発行

## ボーイスカウト・ガールスカウト

### 地区大会及スカウトの集い

浜松地区にボーイスカウト誕生を記念し  
て下記により開催されるから多数の参加  
者を希望する。

とき 11月3日 午前10時~14時  
ところ 浜松市児童会館ホール

内容 第1部 式典  
第2部 各団による歌、寸劇等観賞  
第3部 ジャンボリー記念 記録映